タイトル:『汐製菓会社の新作 41 アイス 1』

【登場人物】

- **汐（しお）**
  30 代、汐製菓会社の社長。モットーは「面白きことも無き世を面白く」。奇抜なアイデアで商品を作る天才。
- **塩田（しおた）**
  30 代、汐の秘書。真面目で心配性だが、実は大の菓子好き。汐の奇抜なアイデアに戸惑いつつも、つい協力してしまう。
- **社員 A/B/C**
  汐製菓の社員たち。常識的な発言をするが、汐の勢いに押される。
- **試食会のお客たち**
  田中、サラ、カール、李、ルナ。

【第一幕：奇想天外なアイデアの誕生】

（会議室。汐と塩田、数人の社員たちが集まっている。）

汐

「さあ、みんな！新作のアイデアがついに完成したぞ！」

塩田

「え、また何か新しいのですか…？」

社員A

「前回の抹茶キムチチョコ、あれは大変なことになりましたけど…」

汐

「今回のは違う！絶対大ヒット間違いなしだ！その名も…『鹿肉アイス』！」

塩田・社員たち

「えっ！？」

社員B

「社長、ちょっと待ってください。鹿肉ってあのお肉ですよね？どうしてそれをアイスに？」

汐

「そこがポイントなんだよ！アイスクリームの甘さと、鹿肉のジューシーな旨味が絶妙にマッチするんだ！」

塩田

「え、でもお肉ってアイスと一緒に食べるものなんですか？お客様がどう思うか…」

社員C

「いやいや、社長、食べてみたら驚きますよ。普通、アイスは甘いものを期待して食べるんですし…」

汐

「大丈夫さ！世の中の常識を打ち破るんだ。『美味い』という概念をひっくり返すんだよ！」

塩田

（困惑しながら）「社長…いつもながら大胆ですね。でも、これはさすがに挑戦的すぎませんか？」

汐

「挑戦がなければ進化もない！さあ、みんな！早速試作に取りかかるぞ！」

【第二幕：試作開始！】

（工場。汐と塩田、数人の社員が白衣を着て試作を始めている。）

汐

「さて、鹿肉をこれだけ細かくしてアイスに混ぜ込んでみよう！」

塩田

（鹿肉を見て）「これをアイスに…ですか。本当にこれで美味しくなるんでしょうか？」

社員A

（苦笑い）「いやあ…想像がつきませんね…」

汐

「想像なんて必要ない！食べればわかる！」

（汐が勢いよく鹿肉をアイスに混ぜ込む。塩田と社員たちはそれをじっと見つめている。）

塩田

「社長、これ、ちゃんと混ざってますか？アイスが肉に勝ってない気がするんですが…」

社員B

「アイスが肉に負けるってどういうことですか？そんな言葉、初めて聞きましたよ！」

汐

（自信満々に）「いやいや、見ててごらん。これで完璧だ！さあ、試食しよう！」

（汐がアイスをスプーンで一口食べる。）

汐

（目を閉じて）「…う、うまい！これは…まさに奇跡だ！肉とアイスの融合だ！」

塩田

（半信半疑で）「そんなに美味しいなら、私も…」

（塩田が恐る恐る一口食べる。）

塩田

（驚いて）「え…意外と、悪くない…！？」

社員C

「ちょっと僕も試してみたい…」

（社員たちが次々と試食し、戸惑いながらも意外と美味しいことに気づく。）

社員A

「なんか不思議ですね…お肉の味がこんなに合うなんて。」

汐

「そうだろう！これでいける！」

塩田

「でも、これが本当にお客様に受け入れられるかどうか…」

汐

「試食会を開こう！世界中の味覚を持つ人たちに食べてもらえばわかるさ！」

【第三幕：試食会！】

（豪華なホテルの一室。国内外のお客たちが集まり、試食会が開かれている。）

汐

「さあ、みなさん！特別な『鹿肉アイス』をご賞味ください！未来のデザートがここにあります！」

（お客たちがそれぞれアイスを手に取り、試食を始める。）

田中

「うーん、これは…なんというか…昔の和風の味わいとは少し違うなあ。」

サラ

（大興奮して）「Oh my god！クレイジーだけど最高！新しい冒険だわ！」

カール

（真剣な表情で）「甘さが控えめだ。ドイツのデザートとは違うけど、意外と良い。」

李

「アイスと肉がこんなに調和するとは…中国ではこういう組み合わせはないな。面白い。」

ルナ

（考え込んで）「フランスではこういうのはあり得ないけど…新しい次元の美味しさね。」

汐

「みんな、ありがとう！これが新しいデザートの形なんだ！」

【第四幕：市場調査と反応】

（汐製菓会社の会議室。塩田が市場調査のデータを持ってくる。）

塩田

「社長、結果が出ました。なんと、国内外で大反響です！」

汐

「本当か！？どんな声が届いたんだ？」

塩田

「『新しい味覚の革命だ』、『クセになる味だ』って評判が多くて、SNSでも『鹿肉アイスチャレンジ』がトレンド入りしています。」

汐

「やった！やっぱりこのアイデアは間違ってなかった！」

社員A

「社長、やはり大ヒットですね。ボーナスも期待していいですか？」

社員B

「いや、パッケージの鹿のイラストも良かったんですよね。あの、アイスを頭に乗せた鹿！」

【第五幕：結末】

（事務所。社員たちが集まり、成功を祝っている。）

塩田

「社長、本当に大成功ですね。まさかここまで反響があるとは…」

汐

「だろう！？次はもっと大胆な商品を考えるぞ！」

塩田

「また奇抜なアイデアですか？でも、意外と期待してます…」

汐

「次は…ラーメン味のアイスだ！」

塩田

（驚愕して）「またですか！？でも、またヒットするかも…」

（みんなが笑って物語は終わる。）

【終わり】